

## 採択団体一覧

団体名	所在地	事業名	事業概要	助成額
じのん英会話教室	宜野湾市	学習支援事業	ひとり親世帯や多子世帯、またはコロナ禍で一時的困窮に陥っている世帯が増えている。そうした中、貧困により学ぶ機会が狭められている子ども達に放課後の居場所を提供し、学習支援、食支援を通して学力の向上と健全な心の成長を支援する。放課後の自習室としての機能で学習習慣を身につかせ、食支援で孤食や欠食を防ぎ、民生員として相談を受けた問題を抱えた子どもや発達障害の子どもも受け入れ、社会とのつながりを特たせる。また、特に英会話の学習支援に力を入れ、子ども達が世界の共通語と言われている英語を習得することで進路の選択肢が増やす。視覚・聴覚・体感を使った学習方法で「話せる英語」を目標にする。英会話を習得することで、インターネットを駆使し、言葉の壁を乗り越えての情報収集がより容易にでき、将来の夢の実現の可能性もひろがる。島嶼である沖縄にいながらも異文化に触れることができ、向上心も生まれる。英会話習得の重要性と必要性は、私自身約4年間の米国生活でネイティブスピーカーの英会話を学び、その経験があったからこそ、フィリピンのマニラにある乳児院・孤児院で2週間のボランティア活動ができ、帰国後は約10年間国際養子縁組の通訳ボランティアとして社会貢献ができたことからも言える。支援をしていく中で、英会話の習得によって基礎学力も向上し、希望の学校へ進学できた子どもや、自らが将来の夢を具体化し、前向きになった子どももいる。自己肯定感が生まれ、他人とのコミュニケーションがスムーズにとれるようになった、学習以外での変化がみられる子どももいる。学習支援の基本は継続が要であり、そのためには人的、物的、資金的にも安定した体制作りをし、子どもとの信頼関係が保てるように、週3回の学習支援と週4回の食支援を目指す。	総額 11,000,000円 直接事業費 8,808,270円 管理的経費 2,191,730円
一般社団法人みやび企画	那覇市	まつしま子ども支援事業	沖縄県では、生活困窮者（こどもの貧困）が大きな問題となっている。単身家庭や共働きが多い家庭において子ども達は朝ごはんを食べずに登校したり、放課後は学童に入らず、家庭で過ごす子が多い。特に長期休みなど、単身家庭の子ども達は食事の確保が難しい。そのような家庭も増えているという現状があるので、社会において弱者である子ども達が大きく影響を受けていることから、食事支援（お弁当の配布や行事食やおやつ提供）学習支援（宿題や課題への取り組み・個別に学びの積み直し）等を積極的に行っていきたい。松島校区ではこのような食事支援や学習支援を行っている団体が少ない為、地域への周知もまだ行き届いていない。週5回の食事支援(や学習支援を行うことで、居場所活動を周知していきたい。居場所集って食べるだけでなく、お弁当やおやつ配布などを行うことで通いやすい雰囲気づくりを行っていく。子ども達が気軽に友だちを誘って、居場所に来るといった機会を持ってもらう為に、自治会の掲示板やホームページで団体の様子を掲載する。このような活動を行うことで、最低限の食事の確保や長期休みでも食事の確保が出来る為、こどもや保護者にとっても安心できる場が提供できると思う。食事支援だけではなく、日頃の宿題や課題を行う学習支援も行っていきたい。学校を離れてからの学習時間の確保は家庭では難しく、特に低学年の子ども達は誰か大人や他の人がいる場所の方が安心して、取り組めると思うので居場所を利用して宿題を終えるという形を作っていきたい。この形を定着させるために放課後に過ごす場所づくりに力を注ぎたい。	総額 11,000,000円 直接事業費 10,054,000円 管理的経費 946,000円
子どもの居場所アップ	那覇市	子どもの食と学習支援	コロナ禍や物価・燃料費高騰の影響を受けて困難を抱えた子育て世帯、経済状況や家庭環境の影響を受けやすい子どもを対象に子ども食堂を毎週5日開催し、子どもの食の支援を通しあらゆる形態の栄養不良を解消し栄養状態の改善を実現する。貧困層や状況の変化を受けやすい子どもたちがフードパントリーを通して、安全で栄養のある食料を一年を通して安定確保が得られるようにする。居場所を通して、経済的リスクに対する健康的な生活、福祉を推進する。環境や経済状況を受けやすい子どもたち誰もが受けられる公平で質の高い教育を提供し、すべての子どもたちが読み書き能力と基本的な計算能力を身につけて学習習慣、人と関わる力、学習の機会を促進する。学習支援を通して貧困から抜け出す支援をする。	総額 11,000,000円 直接事業費 9,766,000円 管理的経費 1,234,000円
子どもの居場所こぼんち	那覇市	子どもの居場所運営事業2023	・開所日数を週2回から週5回に拡張し、安定した食支援を行う。 ・マルチ型の居場所として、さまざまな活動（子ども食堂、学習、保健教室、エイサー、クッキング、制作等）を提供し、子ども達が足を運ぶきっかけを増やす。 ・会員制度と管理システムを導入することで、家庭状況を把握し、食事支援や食材配付などの個別支援に対応できる体制を整える。 ・ひとり親世帯：那覇母子会と連携し、対象世帯と積極的に交流する。必要に応じて子どもは居場所会食し、保護者の分の弁当を持ち帰らせるなどして、養育負担の軽減を図る。 ・団地世帯：当地域は複数の団地が立地しており、低所得や障がい者など支援が必要な家庭が多いとのことから積極的に支援を行う。 ・SSW繋がり：近隣校のSSWと連携し、支援対象児童の見守り、関わり方の模索を図る（食事、宅食、遊び、体験活動など）。	総額 11,000,000円 直接事業費 9,067,500円 管理的経費 1,932,500円
しまっ子HOME	うるま市	島の子ども居場所作り事業	放課後に子どもたちが通える居場所を平安座島自治会館で週1日～週5日開催します。様々な理由で多忙な保護者に代わり、当居場所で学習支援・食事提供・入浴・歯みがき支援まで行い、家に帰宅後は親子のコミュニケーションの時間に充てられるようサポートします。 平日の学習支援に加え体験学習として島外へ出て子ども最大の可能性である“何故”に向き合って少しでも学習意欲に繋がる活動も行います。当団体と日頃あまり関わりを持っていない子ども達に携わるきっかけとして体験学習を活用し地域の子ども達が関わりやすい環境を提供していきます。島嶼地域ならではの課題として学校終了後は各島に帰宅し同学年で遊べる機会が少ない子ども達のため、月に1度学年別交流日を設け、同学年の友達とコミュニケーションを取れる機会を作ります。 子ども達から第二の家のような存在として認知されるような関係性を育めるよう、多種多様なスタッフを集め個性心理学なども活用しながら一人ひとりの個性に合わせた向き合い方を行います。幸い島には経験豊富な高齢者も多く、地域住民との連携も取りやすいため、地域の自治会館や食堂・学童クラブや民生委員の方々も共に協力をしていただきながら、子ども達が安心して生活できる環境・また子育てのしやすい環境を継続的に確立していきます。	総額 10,999,820円 直接事業費 9,351,000円 管理的経費 1,648,820円

レアーズ	読谷村	こどもの居場所	<p>誰でも気軽に来れる場所に。ただお話しに来てゆっくりするだけでもいい。「誰かと繋がる場所」になれば。</p> <p>地域に開かれた場所によって多くの人が集まる。そして多くのアイデアが生まれ、活動へと繋がる。活動することで多くの人動く。動くことで考える。この循環で人々の困っている事や課題が見えてくる。支援が必要であれば、必要な機関につなぐ。午前中の居場所も含め、私たちの今ある資源（畑等）も活用し活動を拡大していきたい。</p> <p>また、こども達の「やりたい」をお手伝いする「挑戦する場所」にもしていきたい。子どもが持っている力を引き出し、伝え、子ども達が自ら活動に参加できるような仕組みを作る。自らチャンスを見つけ掴み取る。そんな体験活動を通して「自分でできる力」を育み自己肯定感を高める。また子ども達中心に活動することによって、地域活性化を目指す。</p> <p>こども達が企画運営した「こどもまつり」では小中高校生が関わり、学校、自治会、地域、行政等が協力してくださり、今まではなかった繋がりができた。</p> <p>活動を通して新たに見えてきた課題にも少しずつ取り組んでいきたいと考えています。（リタイア世代・高齢者の孤立、活動への協力要請等）</p>	<p>総額 11,000,000円 直接事業費 8,813,211円 管理的経費 2,186,789円</p>
タコライ斯拉バース	那覇市	生活困窮に陥っている家庭の支援事業	<p>沖縄県の相対的貧困世帯は総世帯数の29.9%と全国ワースト1であり、コロナ禍や物価高騰などにより子どもの貧困・孤立問題が顕著になる中、これらの課題を包括的にサポートできる環境を整備することが喫緊の課題と考えられます。</p> <p>弊団体は、毎週土曜日には那覇市社会福祉協議会子どもと地域をつなぐサポートセンター系の支援を受けながら子どもの居場所を運営しています。また平日は株式会社I a bが経営する「ランゲージラボ泉崎児童クラブ」が開所されており、子ども達に対して外国語に触れるようネイティブスピーカーの先生が確保されている等学習環境を整備しています。</p> <p>また弊団体代表は開南小学校のPTA会長、令和5年度には那覇市PTA連合会役員の推薦を受けています。</p> <p>そこで、これまでの経験、ノウハウを活かして、那覇市本庁ブロック各小学校校区内に居住する経済的困窮など、家庭内に課題を抱える子ども及び若者の支援として</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>1 食糧支援の拡充</li> <li>2 学習支援の拡充</li> <li>3 体験を通じた学習の拡充</li> <li>4 行き渋り児童の受け入れ</li> </ol> <p>の充実を図ります。</p>	<p>総額 11,000,000円 直接事業費 9,172,000円 管理的経費 1,828,000円</p>
ユイマール塾	那覇市	子どもと若者の育成支援事業	<p>日時：週4回で月・水・金18:00～20:00、土16:00～18:00。</p> <p>場所：月・水は首里城下町クリニック内、金・土でシオンハウス。</p> <p>中学生は月・水・金・土、小学生は月・水で学習支援を行う。</p> <p>ユイマール塾を実施している松川地域は、家庭環境経済格差が著しい地域で教育的配慮が低いエリアとして、ユイマール塾をスタートした。</p> <p>ユイマール塾で指導員をしながらSSWとして活動し、子どもたちやその世帯に関わってきた。</p> <p>現在では、那覇のエリアにとどまらず他市町村(西原・浦添・南風原・八重瀬町など)から利用する子どももいる。</p> <p>そのため、親に送迎ができない家庭には送迎するフォローも行っている。</p> <p>利用する子どもの多くが多子・父子・母子世帯で、利用する子どもだけが食事をするのではなく、家族みんなで同じ食事を食べられるように(家にいる未就学児も食べられるよう⇒みまもり)家族へも食事提供も行っている。夏休みなどの長期休みには、家庭学習の実地状況の確認をしながら食料品の配達を行っている。</p> <p>関わる子どもたちの中に困難を抱えた子もいて、家庭環境の中でネグレクトリスクの高い子どもたちの見守りもしながら、孤独感、孤立感を抱えないように居場所を提供していくことを継続。学校・児童相談所・行政等と連携しながら個別支援も行っていく(ひとり親支援を重視してきた。その中で子育て支援・生活支援を行ってきた)</p> <p>家庭環境のリスクを背負い、そこに育つ子どもたちの居場所として学習支援を強化している。学びなおしにも力を入れている。</p> <p>本来であれば、幼児教育から積み重ねられてできるものが、経済格差や様々な事情があり家庭学習環境が整わないがために、学習についていけない子どもたちがいる。</p> <p>その子どもたちが、理解しやすいように学習指導員を増やし、子2名に対し、1名の指導者を付け、それぞれの子どもたちに合った掘り下げた学習支援を行っている。</p>	<p>総額 11,000,000円 直接事業費 10,660,000円 管理的経費 340,000円</p>

公募の実施概要：

申請希望団体は事前登録の上、2023年3月31日切で申請書類を提出（16団体の応募）

1次審査：書類審査と申請団体すべてにヒアリングを行うを実施（11団体が一次審査通過）

2次審査：外部審査員による面談審査を実施 審査会による内定団体候補8団体を選定

理事会にて8団体の内定を正式に決定しました

※ 助成額は実行団体よりご提出いただいた事業計画書、資金計画書に基づき算定しています。